

# 第6波対策 絵は描いたが

岸田政権が最優先課題に掲げる新型コロナウイルス対策の全体像が示された。医療崩壊した今夏の「第5波」への反省から、最悪の事態を想定した病床確保に取り組む。無料検査の拡充も盛り込み、経済社会活動の回復を目指すが、その課題は。

▼1面参照

## 時刻

染拡大の傾向がある場合、都道府県の判断で無症状でも感染を受けられるよう料で検査を受けられるようにし、感染者の早期発見につなげる。

政府の狙いは、「ワクチン接種や陰性を証明する「ワクチン・検査バッケージ」の普及などで、経済社会活動を回復させることだ。再び緊急事態宣言などを出し、このたびは、都道府県を支援するところ。

もう一つのケースは、感染拡大時の無料検査だ。感

新型コロナ対策の全体像の肝は、入院できるベッドの確保だ。後藤茂之厚生労働相は12日の閣議後会見で

なる人が相次ぐ最悪の事態を招いた。そのため、政府は「第6波」に備え、夏の

対応でできる病床を約1万床確保するわけではない。ただ、新しい新型コロナに対する都道府県は約1万人増と回答。平均で目標を上回る約3割増に相当する。厚生労働部は「第5波では若い人も高齢で「こんな重症化する患者の命が減った。事態の悪さを受け、(都道府県が)備蓄を始めたのだろう」と解説した。

ただ、新しく新型コロナに対応できる病床を約1万床確保するわけではない。半分は病床使用率を上げることで確保することを見込める。各病院ごとに重症や中等症、小児などの患者に対応できる病床数、実際使っている病床数を毎日、都道府県と医療機関、救急本部の間で共有してもらおう。ベッドの空きが把握しきれず、入院先を決めるのに時間がかかったことを反省しての対応だ。今年8月に6割強で上昇した病床使用率を

「短期間の延期ならリスクが低い」と判断される予定手術などと明確になつていいが、別の厚生労働部は「短期間の延期ならリスクが低い」と明記した。どういった医療を対象とするのか政府の公式見解は

明らか。心筋梗塞になつた高齢者で、普段でもなかなか手術しない重いレベル

なら手術はない、という選択肢もある(田伏潤)

## 無料検査 忽然拡大時に拡充へ

「検査も技術的に拡充する。感染拡大時はワクチン接種者を含め、無症状者でも無料で検査を受けられるようになります」

岸田文雄首相は12日、新型コロナウイルス感染症対策本部で、3回目のワクチン接種や終了薬の年内実用化とともに、検査拡充の必要性を強調した。これまでがある場合や感染者の濃厚接触者が医師や保健所が必要と判断した場合に限られていたが、今後は無料検査の対象を広げる。

だが、いつ誰でも無料で検査を受けられるわけではない。対象は二つのケースに限られる。

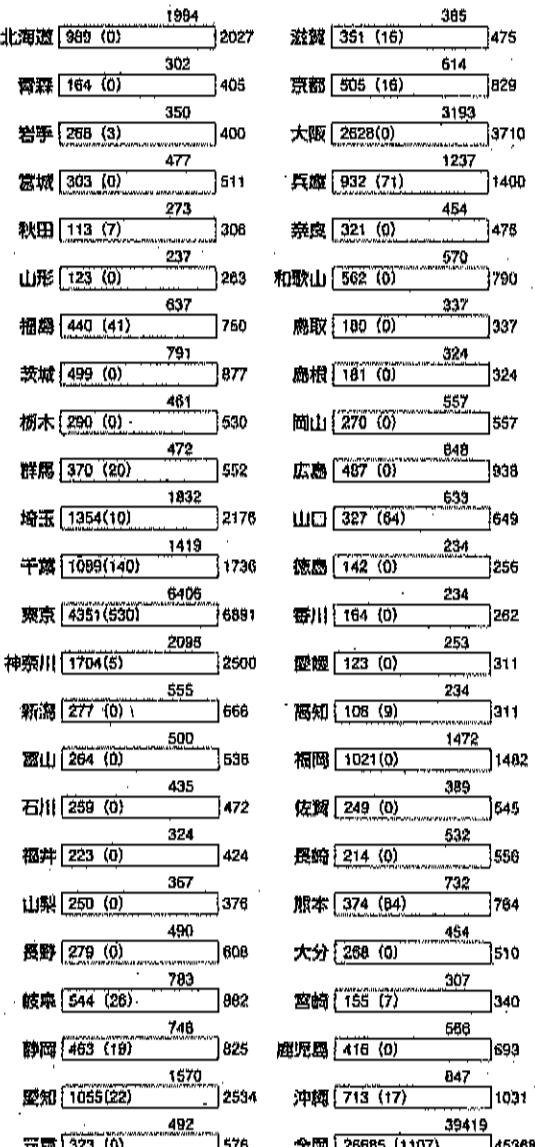
今夏のビーグル時点の入院患者数(カッコ内は入院待機者数)

9月1日時点の確定病床数

想定するビーグル時の病床数

## 各都道府県の判断基準未定

【想定するビーグル時の病床数】を100%として各数字をグラフ化



クチン接種が進み、これまでのように社会・経済活動を制限することで流行を抑止する」と期待する。

課題は、無料化するタイミングだ。都道府県が判断する感染拡大の傾向について、柳原亮紀・長崎大教授(臨床検査医学)は、「ワ

クチン接種が進み、これまでのように社会・経済活動を制限することで流行を抑止する」と期待する。

課題は、「新型コロナに対する都道府県は約1万人増と回答。平均で目標を上回る約3割増に相当する。厚生労働部は「第5波では若い人も高齢で「こんな重症化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力」と語る。

西村圭史・豊田義夫(西村圭史・豊田義夫)

## 半分は使用率を上げ捻出

新型コロナ対策の全体制の肝は、入院できるベッドの確保だ。後藤茂之厚生労働相は12日の閣議後会見で

なる人が相次ぐ最悪の事態を招いた。そのため、政府は「第6波」に備え、夏の

対応でできる病床を約1万床確保するわけではない。ただ、新しく新型コロナ

に対する都道府県は約1万人増と回答。平均で目標を上回る約3割増に相当する。厚生労働部は「第5波では若い人も高齢で「こんな重症化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力になると想定。ワクチン接種が進んで重複化する患者の命が減つても、入院できる人を2倍の感染力」と語る。

西村圭史・豊田義夫(西村圭史・豊田義夫)

それが現実的ではなく、なってきている」と指摘。「検査が受けやすくなる」として、早めに「網」をかけ感染者を見つかる」とがわかる」と期待する。

課題は、「新型コロナに対する都道府県の判断で無症状でも感染を受けられるよう料で検査を受けられるようにし、感染者の早期発見につなげる」。

これが現実的ではなく、なってきている」と指摘。「検査が受けやすくなる」として、早めに「網」をかけ感染者を見つかる」とがわかる」と期待する。

西村圭史・豊田義夫(西村圭史・豊田義夫)